

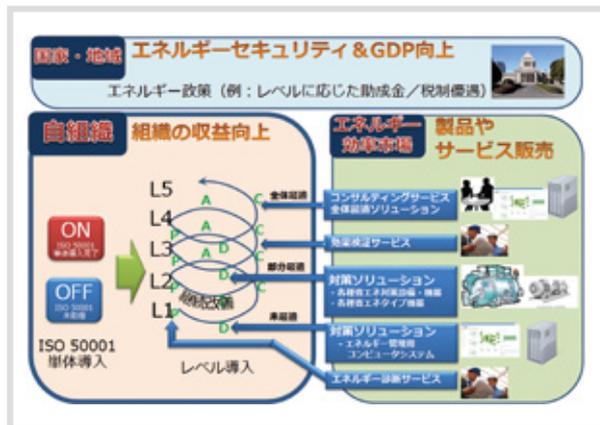
EnMSマネジメントレベル標準化フォーラム報告

2017年9月26日(火)、TKP大手町カンファレンスセンターにて、第1回EnMSマネジメントレベル標準化フォーラムを開催しました。

EnMSマネジメントレベルの経緯と概要

エネルギーマネジメント標準化委員会では、ISO/TC 301(エネルギーマネジメント およびエネルギー削減量)の審議に参画し、ISO50001(エネルギー管理システム)の普及活動に取り組んでいます。今年度より経済産業省の標準化提案補助事業として、日本規格協会の「省エネルギーに関する国際標準の獲得・普及促進事業委託費」委託事業に採択されました。今回のフォーラムでは、これまで検討してきた規格原案をご紹介します。広く国内の意見を取り入れるために、パネルディスカッションを通して提案へ向けた課題について活発な議論を行いましたので報告します。

[EnMSマネジメントレベルの導入効果の概念図]



フォーラムの概要および主な成果

開会の辞

フォーラムの開会にあたり、検討会の主査である木村幸様((一財)電力中央研究所)より、最近の省エネに関する背景として、昨年11月にパリ協定が発効され、

100カ国を超える発展途上国・先進国を含めた世界全体で地球温暖化や省エネ推進に取り組む枠組みができ、益々活動が加速されることが期待され、日本も非常に野心的なCO₂削減目標を掲げており、需要家への省エネ推進の必要性が求められていることが示され、日本では省エネ法を中心にエネルギー管理を進めてきた長い歴史はあるが、ISO50001をさらに補完していく、ある意味追い越していこうという国際規格を提案は、日本にとっても世界にとっても重要な取り組みになってくるとの期待が述べられました。

ISO50001 認証取得企業よりご講演

招待講演としてISO50001認証取得企業から、イオン(株)とSCREENグループより、各企業の省エネやISO50001取得に向けた取り組みをご紹介します。

奥田様(イオン(株))からは、CO₂削減の取り組みの中で、複雑なグループ構成の中、グループ全体での認証取得にあたり、イオン本社が事業会社全体を取りまとめるためにISO50001を省エネのツールとして活用し、エネルギー削減目標へ向けた具体的な取り組みをご紹介します。

速水様((株)SCREENビジネスサポートソリューションズ)からは、モデル事業所にて認証を取得してから、本社および他の事業所へ展開することにより、工場全体での取り組みに成功されているとのこと、規格の理解からはじめ、エネルギーベースライン策定やエネルギーパフォーマンス指標の設定など、規格の各項目の要求仕様を満たすための検討など、ISO50001を世界で初めて取得されたご経験を詳細に説明いただきました。



招待講演講師(左:奥田様、右:速水様)

パネルディスカッション

木村主査にモデレータを務めていただき、パネリストとして有識者および業界団体からの代表として、西尾匡弘様((国研)産業技術総合研究所)、石原明様((一財)省エネルギーセンター)、井上賢一様((一社)日本電気計測器工業会)にご登壇いただきました。

提案規格の目的について、井上様より省エネ努力を評価する制度が必要であり、認証取得・未取得のON/OFFでは取りっ放しになりやすいとの懸念が示され、日本のエネルギー効率化市場、製品、サービスが規格を通じてグローバル広がる期待が述べられました。また、省エネ法との関係については、石原様より省エネ法とISO50001は対応しているが、50001には量的なコンセプトがなく具体性がないなどの不十分なところがあり、省エネ法でカバーしている部分をマネジメントレベルで補完できる可能性があり、レベルを政策的に利用してもらえれば有用であるとのご意見をいただきました。さらに、ISO50001の認証取得の状況について、ISO/TC 301 CAG (Chairman's Advisory Group) メンバーでもある西尾様よりご紹介がありました。欧州、特にドイツでは税制優遇など政策に取り込まれているため、ISO50001認証取得が加速している中、日本では省エネ法で十分との考え方もあり、認証取得が進んでおらず、原単位での取り組みからさらにエネルギー効率向上を求めるユーザには是非使ってもらいたいとのご意見をいただきました。



パネルディスカッションのモデレータ・パネリスト

今後の予定と委員募集

EnMSマネジメントレベルは、管理手法の適切さ・進歩性とエネルギーパフォーマンス向上の達成レベルの両面から評価する仕組みで、ISO50001の管理手法に加えて、省エネ法の考え方も加味されており、より高効率な省エネ機器やシステム、ソリューションの市場拡大の可能性が期待されます。エネルギーマネジメント標準化専門委員会副委員長である松井哲郎様(富士電機(株))より、国際標準規格提案へ向けた取り組みが紹介されました。今年度より3年間で以下の対応を行い、平成33年度の規格発行をめざします。

[平成29年度]

- ・第一次原案をもとに第1回フォーラム開催
- ・新規提案概要のTC 301国内審議

[平成30年度]

- ・日本企業の実態調査(アンケート)実施
- ・新規提案原案のTC 301 CAGに事前説明
- ・第2回フォーラム開催
- ・第二次原案を作成し、複数組織で実証テスト実施
- ・新規提案の国内最終原案作成

[平成31年度]

- ・新規提案の国内審議
- ・ISO TC 301へ新規提案の国際提案
- ・第3回フォーラム開催し進捗報告を実施

今後の取り組みについて紹介する
松井様



本検討会では、本規格開発へ参加いただける方を広く募集しております。高効率な省エネ機器やシステム、ソリューション提供ベンダー、省エネ・エネルギー効率に取り組まれているユーザ、あるいは有識者の方々や各業界の代表の方には、是非ご参加いただけますようよろしくお願いいたします。